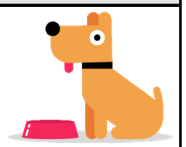
情報セキュリティマネジメント試験　公開セミナー

● 情報処理技術者試験

スキルアップ

	共通キャリア･フレームワーク	技術者向け試験	利用者向け試験
レベル4	高度な 知識･技能	高度試験 (複数の専門区分)	
レベル3	応用的 知識･技能	応用情報 技術者試験	
レベル2	基本的 知識･技能	基本情報 技術者試験	**情報セキュリティ マネジメント試験**
レベル1	職業人に共通に 求められる基礎知識		ITパスポート 試験

●「情報セキュリティマネジメント試験」の概要

①試験の 対象者像	**情報システムの利用部門**にあって、**情報セキュリティリーダ**として、情報及び情報システムを安全に活用するために、情報セキュリティが確保された状況を実現し、維持･改善する者	
②受験手数料	7,500 円 (消費税込み)	
③出題方式	★コンピュータを用いて試験を行う CBT(Computer Based Testing)方式。令和 5 年度からは随時受験可能となり、受験者が自身で試験会場と受験日時を選択して予約し、受験します。 (試験問題は非公開であり、第三者に開示することはできません。)	
⑤問題形式 と出題数	★一つの試験時間内に「科目 A」と「科目 B」をまとめて実施	
	･科目 A：小問形式の問題 (四肢択一)　48 問	･科目 B：事例問題 (多肢選択式)　12 問
④試験時間	･科目 A･B の合計 60 問を、120 分間で解く	
⑥合格基準点	･総合評価点 (科目 A･B の総合点)：600 点／1,000 点満点	

●令和 5 年度（2023 年度）以降の試験で変更された点について

(1) **問題形式の変更**：令和 4 年度までは「午前試験」と「午後試験」に分かれており、
午前試験：小問 50 問／90 分　　午後試験：長文の事例問題 3 問／90 分
という構成でしたが、令和 5 年度からは、2 つの試験が一体化され、**科目 A (小問)** と**科目 B (事例問題)** が一つの試験として実施される形となりました (120 分)。
また、「午後試験」の事例問題は 10 ページ程度の長文問題 (複数の設問を含む問題) でしたが、変更後の「科目 B」の事例問題は、各問が 2 ページ程度となっています。(**10 ページ程度の長文問題 3 問 → 2 ページ程度の問題 12 問へ変更**)

(2) **実施スケジュールの変更**：令和 4 年度までの CBT 試験では、年に 2 回、上期と下期に、それぞれ 1 か月程度の試験実施期間が設けられており、受験者はその期間内で受験しなければなりませんでしたが、令和 5 年 4 月以降は、随時受験できるようになります。試験会場は全国に 260 会場程度用意されており、受験者は随時、試験会場を選んで予約することができます。(試験の申込みについてはp3 参照)

●科目 A の主な出題内容

★科目 A の出題内容は、大きく「重点分野」と「関連分野」に分かれています。

重点分野	**情報セキュリティ全般**	機密性･完全性･可用性、脅威、脆弱性、サイバー攻撃手法、暗号、認証 など
	情報セキュリティ管理	情報資産、リスク、ISMS、インシデント管理などの各種管理策、CSIRT など
	情報セキュリティ対策	マルウェア対策、不正アクセス対策、情報漏えい対策、アクセス管理、情報セキュリティ啓発 など
	情報セキュリティ関連法規	サイバーセキュリティ基本法、個人情報保護法、不正アクセス禁止法 など (ストラテジ系の内容)
関連分野	**テクノロジ**	ネットワーク、データベース、システム構成要素
	マネジメント	システム監査、サービスマネジメント、プロジェクトマネジメント など
	ストラテジ	経営管理、システム戦略、システム企画 など

★科目 A の問題のうち、7 割程度が重点分野からの出題となります。

●科目 B の主な出題内容

業務の現場における情報セキュリティ管理の具体的な取組みである情報資産管理、リスクの分析･評価･対応など、IT 利用における情報セキュリティ確保、委託先管理、情報セキュリティ教育･訓練などのケーススタディによる出題を通して、情報セキュリティ管理の実践力が問われます。(科目 A では主に知識が問われますが、科目 B では事例を通して、「課題発見能力」、「課題解決能力」などの技能が問われることになります。)

●出題の特色：　身近な事例をベースにした実践的な出題！

内部不正の防止、標的型攻撃対策、クラウドサービスの安全な利用、情報セキュリティ関連法規の制定･改正への対応など、組織を取り巻く情報セキュリティ面の環境変化や動向をタイムリーにとらえ、業務の現場で直面している事例に即した問題が出題されます。

●本試験問題にチャレンジ！

★過去問題･サンプル問題を一緒に解いてみましょう！

●科目 A 〔重点分野：情報セキュリティ全般〕

問 1 リバースブルートフォース攻撃に該当するものはどれか。

ア 攻撃者が何らかの方法で事前に入手した利用者 ID とパスワードの組みのリストを使用して，ログインを試行する。

イ パスワードを一つ選び，利用者 ID として次々に文字列を用意して総当たりにログインを試行する。

ウ 利用者 ID，及びその利用者 ID と同一の文字列であるパスワードの組みを次々に生成してログインを試行する。

エ 利用者 ID を一つ選び，パスワードとして次々に文字列を用意して総当たりにログインを試行する。

●科目 A 〔重点分野：情報セキュリティ管理〕

問 2 JIS Q 27000:2019(情報セキュリティマネジメントシステム－用語)において，不適合が発生した場合にその原因を除去し，再発を防止するためのものとして定義されているものはどれか。

ア 継続的改善　　イ 修正

ウ 是正措置　　エ リスクアセスメント

●科目 A 〔関連分野：テクノロジ〕

問 3 社内ネットワークからインターネットへのアクセスを中継し，Web コンテンツをキャッシュすることによってアクセスを高速にする仕組みで，セキュリティの確保にも利用されるものはどれか。

ア DMZ　　イ IP マスカレード(NAPT)

ウ ファイアウォール　　エ プロキシサーバ

●科目 B 〔サンプル問題：ビジネスメール詐欺(BEC)の巧妙な手口を把握する！〕

問 4 A 社は輸入食材を扱う商社である。ある日，経理課の B 課長は，A 社の海外子会社である C 社の D さんから不審な点がある電子メール(以下，メールという)を受信した。B 課長は，A 社の情報システム部に調査を依頼した。A 社の情報システム部が C 社の情報システム部と協力して調査した結果を図 1 に示す。

1 B 課長へのヒアリング並びに受信したメール及び添付されていた請求書からは，次が確認された。

[項番 1] D さんが早急な対応を求めたことは今まで 1 回もなかったが，メール本文では送金先の口座を早急に変更するよう求めていた。

[項番 2] 添付されていた請求書は，A 社が C 社に支払う予定で進めている請求書であり，C 社が 3 か月前から利用を開始したテンプレートを利用したものだった。

[項番 3] 添付されていた請求書は，振込先が，C 社が所在する国ではない国にある銀行の口座だった。

[項番 4] 添付されていた請求書が作成された PC のタイムゾーンは，C 社のタイムゾーンとは異なっていた。

[項番 5] メールの送信者(From)のメールアドレスには，C 社のドメイン名とは別の類似するドメイン名が利用されていた。

[項番 6] メールの返信先(Reply-To)は D さんのメールアドレスではなく，フリーメールのものであった。

[項番 7] メール本文では，B 課長と D さんとの間で 6 か月前から何度かやり取りしたメールの内容を引用していた。

2 不正ログインした者が，以降のメール不正閲覧の発覚を避けるために実施したと推察される設定変更が D さんのメールアカウントに確認された。

図 1 調査の結果(抜粋)

設問 B 課長に疑いをもたれないようにするためにメールの送信者が使った手口として考えられるものはどれか。図 1 に示す各項番のうち，該当するものだけを全て挙げた組合せを，解答群の中から選べ。

解答群

ア [項番 1], [項番 2], [項番 3]　　イ [項番 1], [項番 2], [項番 6]

ウ [項番 1], [項番 4], [項番 6]　　エ [項番 1], [項番 4], [項番 7]

オ [項番 2], [項番 3], [項番 6]　　カ [項番 2], [項番 5], [項番 7]

キ [項番 3], [項番 4], [項番 5]　　ク [項番 3], [項番 5], [項番 7]

ケ [項番 4], [項番 5], [項番 6]　　コ [項番 5], [項番 6], [項番 7]

●統計情報

★合格率などの統計情報は、ホームページ上で公開されます。

	応募者数	受験者数	合格者数	合格率
令和 2 年(2020 年) 下期	9,694	9,121	6,071	**66.6%**
令和 3 年(2021 年) 上期	15,441	14,089	7,376	**52.4%**
令和 3 年(2021 年) 下期	16,231	14,738	7,949	**53.9%**
令和 4 年(2022 年) 上期	14,249	13,129	8,032	**61.2%**
令和 4 年(2022 年) 下期	17,062	15,415	8,016	**52.0%**

●試験の申込みについて 〔2023 年 4 月以降の CBT 試験〕

〔1〕**申込み受付開始日（予定）：** **2023 年 3 月 15 日（水）10 時**

〔2〕**試験開始日（予定）：** **2023 年 4 月 5 日（水）** 〔試験会場によって開催する試験日時が異なります。各試験会場における試験日時は、申込時にご確認ください。〕

〔3〕**試験会場**： 株式会社シー・ビー・ティ・ソリューションズ（CBTS）が認定する全国の CBT テストセンター 〔最新のテストセンター一覧は申込時にご確認ください。〕

〔4〕**申込方法**： 利用者 ID（マイページアカウント）を作成の上、申込受付開始後に受験申込みを行っていただきます。 なお、受験申込みする月から起算して 3 ヶ月後までの試験日時が選択可能です。

利用者 ID（マイページアカウント）の作成については下記のページをご参照ください。
https://itee.ipa.go.jp/ipa/user/public/entry/

★**注意**： 登録できる利用者 ID は、一人につき同時に一つのみとなりますので、作成した利用者 ID、パスワードは大切に保管しましょう。
作成した利用者 ID は、情報セキュリティマネジメント試験だけではなく、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、高度試験、情報処理安全確保支援士試験の受験申込みの際にも使用します。 〔IT パスポート試験では使用できません。〕

●リテイクポリシー 〔再受験についての規定〕

〔1〕一度受験した試験区分の再申込みが可能になる日時：
申込み済の試験の終了時刻を過ぎたら、再申込みが可能になりますが、システム処理の都合上、再申込みが可能になるまでには数時間～1 日程度かかります。

〔2〕一度受験した試験区分の再申込み時に、受験日として指定が可能となる日：
前回の受験日の翌日から起算して 30 日を超えた日以降を、受験日として指定可能です。〔受験日から 30 日を超えた日であれば、再受験が可能です。〕

●試験当日の留意事項

試験中にメモを取ることができますが、その際には会場受付で配布されたメモ用紙とボールペンを使用しなければなりません。追加のメモ用紙が必要な場合は試験監督者に合図をすれば、追加のメモ用紙を渡してもらえます。 なお、このメモ用紙は持ち帰ることができません。試験終了後、ボールペンとともに試験監督者へ返却します。

●評価点の確認と合格発表について

●試験終了後、CBT の画面上に「総合評価点」が表示されます。
〔総合評価点が 1,000 点満点中、600 点以上であれば、合格です。〕

●正式な合格発表は、受験月の翌月中旬を予定しています。

★**なお、試験の最新情報については、必ず IPA の Web サイト等をご確認ください。**

〔1〕**試験制度、合格発表、合格証書等に関するお問い合わせ：**
独立行政法人 情報処理推進機構（IPA）：**https://www.jitec.ipa.go.jp/**

〔2〕**受験申込みに関するお問合せ：**
株式会社シー・ビー・ティ・ソリューションズ
受験サポートセンター（専用窓口） **TEL 03-4500-7862**

●合格のための対策

（1）学習に当たっての心得↓

①**合格するまでのプロセスを十分に楽しみましょう。**〔各学習項目と自身の暮らしや仕事との関わりを確認しながら、視野が広がっていくことを楽しみましょう！〕
②通勤・通学の電車の中など、細切れの時間を有効に使うことを心がけましょう。
③ニュースサイトなどでの IT 関連・セキュリティ関連の記事には、こまめに目を通しましょう。〔新しい不正アクセスの手口や、コンピュータウイルスなどの最新情報をつかんでおくとよいです。〕

（2）初学者が用意すべき教材↓

a. 試験対策テキスト〔出題範囲全般の基礎知識が載っている受験参考書〕
b. 試験対策問題集〔分野別に練習問題・予想問題が載っているもの〕
c. 本試験問題集

★TAC の「情報セキュリティマネジメント」講座にご参加いただく場合は、教材 a、b、c を配布させていただきます。また、「総合実力テスト」と「Web サイト上での模擬試験」を実施しますので、腕試しや本試験の予行演習を行っていただくことができます。

（3）「科目 A」小問への対策↓ 〔独学者で初めて受験される方を想定〕

★科目 A の問題は、48 問（全 60 問のうちの 8 割）です。

①インプット学習（テキストの学習）：

すでに IT パスポート試験（または基本情報技術者試験）に合格している場合は、「関連分野」の学習は省き、「重点分野」から「試験対策テキスト」の学習を始めてもよいです。IT パスポート試験等の受験経験がない場合は、テキストの「関連分野」から学習を始め、土台となる基礎知識を身に付けた上で、「重点分野」の学習に進みましょう。

②アウトプット学習（問題演習）：

「試験対策問題集」の問題を解き、解説を読みます。なぜ、その解答になるのか、他の選択肢がなぜ間違いなのかをしっかり理解しておきましょう。

新しい用語や、セキュリティ関連のガイドラインなどについては、テキストやインターネットで調べ、周辺知識もまとめておきましょう。また、最近猛威を振るっているマルウェアの名称や、不正攻撃の最新の手口なども調べておくとベストです。

（4）「科目 B」事例問題への対策↓

★科目 B の問題は 12 問（全 60 問のうちの 2 割）です。

①主な出題テーマを把握しておく

科目 B の主な出題範囲は次のとおりであり、これに基づいて技能が問われます。

1 情報セキュリティマネジメントの計画，情報セキュリティ要求事項に関すること

2 情報セキュリティマネジメントの運用・継続的改善に関すること

②アウトプット学習（問題演習）：

「試験対策問題集」や IPA が公開しているサンプル問題を活用し、問題演習を中心とした学習を行いましょう。設問に解答し、解説を読んで、勘違いした内容や不足していた知識を正しくつかみましょう。

③複数の事例に対応できるよう、知識をストックしておく：

科目 B では、問題ごとに業務の背景や出題テーマが異なるので、頭を切り替えて多くの事例に対応しなければなりません。各問の出題の趣旨を短時間で把握し、適切な解答を導くには、予想問題などで様々な事例に触れ、知識をストックしておく必要があります。 ★**科目 B 問題の目標解答時間**：1 問 5 分程度で解けるようにしておきましょう。

（5）「科目 B」問題の解き方 〔参考〕

①問題を解く手順について：

【1】 問題文の冒頭を読み、出題のテーマや業務の舞台背景をつかむ。

【2】 設問と解答群を眺め、解答の形式（文章を選択する問題、適切な答えの組合せを選択する問題、空欄を埋める問題など）をつかむ

【3】 解答を導くための詳細部分（図や表の中の細かな内容）に目を通して解く。

【4】 解答群の中から正しいと思う答えを選び、解答欄の記号をクリックする。

②設問解答のテクニック 〔参考〕：

【1】 計算問題は、必ず紙に書いて計算しましょう。（計算ミスの防止のため）

【2】 空欄を埋める形式の問題では、中に入れる字句をある程度予想しておくとよいです。予想できなければ、解答群をヒントにして考えます。（選択肢の中であきらかに問題文の状況に合わないものから消去していくなど。）

【3】 適切な答えの組合せを選択する問題では、一つの答えが見つかるたびに解答を絞り込んでいくと効率が良いです。（解答時間の短縮ができます。）

【4】 適切な解決策を選択する問題などでは、自身の経験や一般的な対応を選ぶと失敗してしまうことがあります。あくまでも、問題の舞台となっている部署の状況に合致する対応を選択すること（条件や状況を踏まえた上で判断すること）を、忘れないようにしましょう。

●学習手順及びスケジュールプラン（独学者を想定した一例です）

3 か月前…「受験すること」を決意する！

①ニュースサイトなどで、IT 関連・セキュリティ関連の記事に目を通すことを習慣づける。

②「試験対策テキスト」で問題を解くための知識を身に付ける。

2 か月前

③「科目 A」の問題演習：（4 択問題の演習を行うことで、知識を定着させる。）

正解以外の選択肢、周辺の知識も Web などで調べ、ノートなどにまとめておく。

1 か月前

④受験申込みを行う。（希望する試験会場の座席が埋まらないうちに、お早めに！）

⑤「科目 B」の問題演習：（問題集の問題などを繰り返し解き、出題形式に慣れておく。）

⑥模擬試験を受験する。（Web 模試等で、CBT 方式の試験にも慣れておく。）

10 日前～試験前日

⑦時間配分の練習をしておく。知識の確認を行う。

★学習期間には個人差があると思います。独学で学習される方は、上記をご参考に、ご自身の状況に合わせて、学習スケジュールを立ててみてください。

♪いかがでしたか？ 情報セキュリティ管理の知識・スキルを身に付けたい方、IT パスポート試験の合格からステップアップしたい方、 私達と一緒に，情報セキュリティマネジメントの試験勉強を楽しみませんか？